

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070104371		
法人名	株式会社 介護ステーション オアシス		
事業所名(ユニット名)	株式会社 介護ステーション オアシス グループホームオアシス		
所在地	和歌山県和歌山市つつじが丘2丁目6-1		
自己評価作成日	令和3年4月20日	評価結果市町村受理日	令和3年6月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.minnanokaigo.com/facility/022-3070104371/">https://www.minnanokaigo.com/facility/022-3070104371/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和3年5月18日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族の希望があれば入所からターミナルまでの一貫したサービスを行なっております。ご利用者様・御家族様に寄り添い、家庭的な雰囲気の中で安心して暮らしていただけるように努力し、一人一人に適したニーズを把握できるように心掛けております。

高台の静かな住宅街の一角に同法人の事業所がある。2年後にホームの前に公園が建設される工事がスタートしており、入居者と共に公園での地域交流を心待ちにしている。法人には、訪問看護事業所があり、入居者の医療的な相談が迅速に行える環境が整えられている。開設以来勤務しているベテランスタッフもおり、管理者を中心にアットホームな雰囲気につつまれている。コロナ禍でもホーム内で入居者の楽しめるおやつ作りやイベントの工夫をしながら、感染予防を講じた上で、家族等との面会の機会をできる限り減らさないようにしている。入居者とスタッフが協力して大きな作品を作成中であり、完成後はリビングの壁に飾る予定である。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安全かつ質の高い介護を目指し、朝礼時に理念を復唱し、念頭に置き始業する。毎月目標を定めて毎日自己評価を行っている。	理念は法人代表とホーム立ち上げのメンバーが話し合って作った。理念にそった月間目標も作っており、毎日終業時に各自が記号表記で自己評価をし、その結果を翌日の課題としてケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は近隣の人と気軽に挨拶を行い又、年に一回大々的に秋祭りを行い近隣との交流を図っている。(現在コロナ禍により秋祭りは中止しています)	自治会に入り地域の清掃や活動に参加している。ホーム主催の秋祭りはコロナ禍で中止となっているが子供を中心に地域住民がたくさん集まる行事で地域との交流もできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の介護支援専門員が常時相談を受け付けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族、包括の職員また民生委員さんに参加してもらい、報告を行い、ご意見をいただくことでサービスの変更や向上に努めている。	コロナ禍のためホーム内での開催は行えてないが、文書にて活動状況を報告し意見をもらうようにしている。コロナ禍以前は、家族が順番に参加したり、地域包括センター職員や民生委員の参加も毎回あった。コロナ収束後の再開時には、本人の参加やメンバー構成を更に広げたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	円滑なサービス運営ができるよう不明点など尋ね、ご指導を仰ぎ連携をもつ様に心がけている。	行政の担当者には、書類を提出する際に、疑問点等があれば都度質問や協議するとともに、出向く予定がない時でも、電話にて対応策等を教示いただくなど、介護保険課や生活支援課との連携は密に図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないよう、色々工夫して対応している。又、拘束についての勉強会も行っている。	外部研修に参加のうえ、ホームにおいて伝達研修を実施し職員間で共有を図っている。床に布団を敷くなど安全対策をしたうえで、ベッド柵を減らす取り組みを行っている。玄関の鍵は、入居者も中から開けられるタイプであり外出時はスタッフが付き添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は虐待に対して強い関心を持ち、虐待等の行為に対して許さない強い姿勢を持っている。都度、虐待の施設研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の諸制度と共に、現任研修で職員も学ぶ機会を設けている。必要であれば成年後見制度の案内もしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い納得してもらっている。また変更時などは早めに連絡し、了承を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は月に一度以上は来所されるので、その都度意見や要望を伺い、意見や要望が言える雰囲気作りをし、思いを汲み取る心がけている。	毎月の支払いは訪問時に受け取っており、面談も兼ねている。コロナ対策として、面談室を設けたりリモートを実施している。できる限り顔を合わせる機会を設け、意見が言いやすい状況を作り、細かな要望にも対応できるよう心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各部署で月に1度以上はミーティングを行い、職員の意見を聞き主任会議において提案している。また、代表者は常に事業所を訪れ職員の提案等を活かす努力をしてきている。	スタッフの意見はその都度聞き、必要な件は主任会議にて提案している。入居者のために必要な物品は、スタッフの意見がよく聞き入れられており、入浴用の回転いす等の購入が実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格等を取得する様に勧め、資格に対して給与に反映する様なシステムになっている。又代表者は、職員をよく把握しており、適材を適所に配置し、各人が向上心を持って働ける様工夫されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は常に職員のスキルアップを考えており、研修への参加やケアの現場に入り、指導を行い職員の介護技術の向上に力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会へ参加しており、研修時に、同業者との意見交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの開始前からケアマネージャーや職員が関わりを持ち、できるだけ本人や家族の声を聞く様に努めている。出来る限り、本人や家族との面接・聞き取りを実施し、ご要望に近づけるよう体制を整い、安心して支援を受けてもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族にお話を聞き、御家族の思いを受け止め信頼を得られる様な支援を行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人からの相談、家族の訴え等から、本人と家族にとって、一番必要な支援を決めて行く。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人に出来る事はしてもらい、一緒にゆっくりと楽しくという理念の下で共に楽しみ助け合う雰囲気作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を行い、本人・家族の思いに寄り添いながら支援しており、必要であれば頻回の面会をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問があれば共に喜び、再度の来所をお願いしている。	馴染みの方の訪問はコロナ禍で減っているが面会場所を設けたりリモートを活用するなどして工夫されている。日々の様子を写真に撮り、家族にも渡すなどきめ細やかな配慮がされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心理行動障害により、利用者同士、良好な関係を築くことが難しい場合があるが、職員が間に入り関係の悪化を防ぎ、なるべく孤立させないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了決定時の引継ぎと御家族や関係者から連絡があれば適宜相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月一回職員会議で、利用者様一人ひとりについて話し合い、その人の希望や思いについて検討し、出来る限り実現出来る様になっている。	気付きを大切にしており、何気ない日常の会話や様子から汲み取るよう常日頃から意識をしている。担当制ではあるが、全スタッフが把握できるよう、書き漏れや伝達漏れがないように記録に残している。意思表示の確認が難しい場合も、スタッフ間で話し合いながら、汲み取るよう最大限努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	なるべく入居前から聞き取りを行い、又面会の度に御家族と雑談をしながら馴染みの暮らし方に近い環境を提供出来るように把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る力、わかる力を正しく評価し、職員で総合的に見つめる目を養う努力をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には来所の度に状態の説明を行い、介護計画書を見てもらいながら話を聞き、職員には月一回のミーティング時に職員の意見を聞いている。	往診や通院時の状況も含め、主治医や看護師と連携を図るとともに、意見も取り入れた介護計画を作成している。日々のケアからモニタリングを行い、状態の変化にはプランの変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者に対する気づきやそれに基づくケアへの実践・情報共有を常に行うように心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り、個々のニーズに応えられるよう、本人・家族の意向や状態を考えながら、柔軟な支援やサービス提供となるよう職員全体で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの度々の訪問、消防署の防災訓練、地域の幼稚園との交流等を心掛けていますが、地域自治体との協力はあまり得られていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族の希望を聞き、適切な医療が受けられるように助言・支援している。	入居時に、ホームに定期的に往診をしている提携医への変更や、今までのかかりつけ医への通院または往診も本人と家族の希望で選ぶことができる。また、状態に合わせて途中で提携医への変更も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ施設内に訪問看護部門があり、素早く対応している。一日に数回は見回りに来てくれ適切な助言がある。又必要時はこちらから依頼している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の病院との連携は密に行い、ケアワーカーとの連携も取れている。入院時には度々御見舞いに行き、情報を貰い。かかりつけ医にも相談を行い早期の退院が出来る様になっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期の事も話し合っている。又、状態が変化した時は、その都度話し合い、家族が納得出来る対応をしている。	契約時に看取りの説明を行い、重度化に伴って再度意向の確認をしている。ホームでの看取りを希望される場合には看取り指針に従い、同意書を取り交わしている。経験の多いスタッフも多く、看護師が頻回に訪問する体制も整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の動きは常にミーティング等で確認し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員の指導のもと、防火・消防・避難訓練を行なっている。災害に対する訓練は十分ではない。地域との連携も少なくもっと協力して頂ける関係を作りたい。	年2回、入居者も参加する消防署立ち合いの訓練を実施している。火災時には、消防署と複数の役員に自動的に連絡される火災報知器を導入している。法人内の部署ごとに、応援に行けるよう防災マニュアルが作成されている。また、備蓄品は、一週間程度に増量されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎朝の朝礼で介護理念を頭に入れて就業を開始する。プライバシーには配慮をし、人格を尊重するように心掛けている。	基本は苗字で呼ぶが、家族から希望があれば本人の馴染みの名前で呼んでいる。トイレ誘導などの声掛けも周りに気づかれないような配慮がされている。個人情報の書類は鍵のかかる書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを聞きながらできるだけご本人の希望に沿う様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調、機嫌等を見ながらその日の対応を決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪や毛染めを希望される利用者に対しては、定期的に職員が対応し、衣服については基本ご本人に決めて頂いているが、自身で意思表示できない方については、御家族様に尋ねて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは、ごく一部の利用者しか行えていない。、食べたい物を尋ね献立や行事・食事会などに取り入れ、食事が楽しみになるように配慮している。又嗜好を考慮し、個々に変更するように心掛けて	コロナ禍で行事や外食が少ないため、おやつ作りの機会を増やしたり、餃子を包んだりハサミで切るなど、入居者が参加できる部分を設け、食事をできる限り楽しんでもらうよう工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の記録を行い、少ない時は別の方法を考え、それでも駄目な時は医師や看護師に指導を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の口腔状態や本人の能力に応じ、声掛け・見守り・介助を行ない、義歯・歯ブラシ・コップの洗浄、消毒も毎日実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の様子観察や排泄表等で排泄パターンを掴み、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行なっている。	それぞれの排泄機能に適した方法で自立に取り組むケアを行っている。排泄リズムや様子を把握し、誘導することによってパットの使用を減らせている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に乳製品や食物繊維など取り入れ、水分の摂取にも気を配っている。又排泄表を作り、適切な排便があるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は、基本午前中に実施しているが、個々の体調・希望を考慮し、適宜変更している。	週3回の入浴を基本とし、状況に応じて対応している。個浴での対応であり、入浴剤やゆず湯などの季節湯も取り入れながらリラックスタイムを作っている。肌の弱い方にはシャンプーを変える等の対応もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて休息の時間を考え、良いリズムが作れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬に対する目的・知識を学習、共有し、経過の観察に努め、看護師等との連携にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事、誕生日会や外食、お散歩等で気晴らしを行っている。又本人の意思により、家事などのお手伝いなどしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望通りの外出は難しい時もあるが、希望があれば御家族と相談しながら支援している。	コロナ禍で外出ができないが、人通りの少ない近くの散歩や敷地内での日光浴などを行っている。入居者の意向を尊重しながら外出支援に取り組み、提案できる内容を考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	防犯上の理由もあり、居室内に金銭を置くことはお断りしているが、買い物などの際は、立て替えにてお金をお渡しするとともに、支払いの支援を行う様にしている。本人の希望により置く場合は、個々に管理いた		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、電話をかけたり又相手方にかけていただく支援を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るいリビングで自分の座る場所があり、温度や光に気をつけ、居心地の良い様に工夫している。又、季節の花や飾りつけを行い、落ち着いた雰囲気作りをしている。	リビングでは、食堂の利用だけでなく健康体操を行ったり、洗濯物をたたむ作業など皆が集う場となっている。法人代表の意向で週1回花屋さんから季節の花が届くなど、入居者に季節感を味わっていただく工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごせる居室もあり、皆と過ごせるリビングもある。無理な声掛けはせず、本人が落ち着いて過ごせるように支援してる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事や誕生日の写真を飾ったり、季節を感じられるレイアウトを行ったりして、落ち着いたように工夫している。希望があれば馴染みの物や自分の物を持ってきてもらっている。	居室は、使い慣れた物や馴染みの物を持参して入居者個々の希望にレイアウトされており、毎週届く花が彩を添えている。居室ドアは、内側から施錠が可能であり、スタッフは声をかけて入室しており十分プライバシーに配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下、お風呂などには手摺をつけ、歩きやすい様に工夫をしている。又動線は常にきれいにするように心掛けている。		